第１学年　　道徳学習指導案

日　時　平成１５年１１月１１日（火）５校時
児　童　１年１組　男１２名　女８名　計２０名
指導者　千葉　富士子

１　主題名　親切にする喜び　　２－（２）　思いやり・親切

２　資料名　「みちあんない」　（出典　「１ねんせいの　どうとく」　文溪堂）

３　主題設定の理由

（１）価値について

道徳の第１学年及び第２学年の指導内容の２「主として他の人とのかかわりに関すること」の（２）に，「身近にいる幼い子や高齢者に温かい心で接し，親切にする」とある。この内容は，他の人に接するとき，相手に対する思いやりの心をもち実践できる子どもを育てようとするものである。これは，中学年では「相手のことを思いやり，親切にする」に，さらに高学年では，「だれに対しても思いやりの心をもち，相手の立場に立って親切にする」へと発展していくものである。相手を思いやるとは，相手の置かれている立場や状況などから，相手の気持ちを考えることである。そして，その思いが，特に困っている人や弱い立場にある人などに向けられ，そのつらさや悩みなどを理解することにより，行為となって現れてくるものが親切である。

核家族化，ゲームの流行，少子化現象が大きく取り上げられている現在，さらにはコミュニケーションを図れず人間関係が希薄といわれている現在，子どもたちがこれからの社会の中で豊かな人間関係を築くには，相手のことにまず気づき，立ち止まり，相手のことを考え，温かい心で接し，親切にしようとすることが大切であると考える。

この時期の子どもたちは，幼児期から完全に抜け切っていない面があり，自己中心的な考え方や行動が多く見られるが，自分の思いやりや親切な行動が他から認められたり感謝されたりすると，意欲的に関わりを求め，心優しく接しようともする。

そこで，子どもへの称賛や励ましを行いながら，高齢者や幼い子に対して思いやりの心をもって親切にしようとする気持ちを育てることが大切であると考える。

（２）児童について

本学級は全体的に素直な子どもが多いが，入学したばかりの４月，５月はなかなか友達といっしょに遊ぶことができず，お世話に来る６年生と個人の関わりしかとれない傾向が強かった。最近になって，学級の友達と一緒に遊んだり，給食時間などで友達がおかずをこぼしたり，コップに入った水をこぼしたりすると誰ともなく進んで片付けをすることのできる子どもが目について来た。一方で，ちょっとのことで手を出したり，いやなことを言われて泣いたりするトラブルも絶えない。友達が手伝おうと声をかけても「いらない」と断ったり，ものを拾ってもらっても「ありがとう」が言えなかったりすることも日常的に見られる。

これらのことは，相手の立場で物事を考えることのできないことからきていると思われる。相手の身になって物事を考えようとしたり，自分が相手の立場だったらどう思うかを考えたりすることができる子どもになって欲しいと願っている。

（３）資料について

主人公のみほは，友達であるしおりの家に行く途中，困っているおばあさんを見かけながら，一旦通り過ぎるが，やはり気になって戻り，おばあさんに声をかける。みほはおばあさんが探している郵便局のある場所を知らなかったが，しおりが知っていて，２人で案内する。お礼を言われたみほは，しおりと顔を見合わせほほ笑んだという内容である。親切にすることの気持ちよさをつかませるために適した資料であると考える。

（4）本時の指導にあたって

しおりと早く遊びたくて，ランドセルを置くと急いで家を飛び出し，困っているおばあさんを見かけるがそのままとおりすぎてしまうみほの行為から，早く遊びたいという自然の気持ちの表れであることを児童におさえさせる。その気持ちに共感させながら，立ち止まりおばあさんのところに戻ってくるみほの行動はどのような気持ちの変化なのかを考えさせたい。

後半，自分は郵便局は知らないが，しおりなら知っているかもしれないと，あきらめずに自分ができることを精一杯やろうとするみほの姿をとらえながら，無事おばあさんを郵便局に道案内できたことでおばあさんにお礼を言われ，しおりと顔をみあわせてにっこりほほ笑むところで，みほは，どのような気持ちだったのか十分考えさせたい。

みほの取った行動は相手を思いやったからこそ取れた行動であり，そのことによっておばあさんは助かり，それに加えて声をかけることによって自分自身もよい気持ちになるということに共感させ，親切な心を養うようにしたい。

4　本時の指導

（1）ねらい

身近にいる幼い人や高齢者に温かい心で接し，親切にしようとする心情を育てる。

（2）本時の展開

過程	学習活動と主な発問	予想される児童の反応	指導上の留意点
問題の把握 5分	1　困っているときに助けてもらった経験について発表する。 ○困っているときたすけてもらってうれしかったことはありますか。	・消しゴムを貸してもらってうれしかった。 ・・・物を貸してもらった。 ・泣いているとき「どうしたの。」と言われてうれしかった。 ・・・声をかけてもらってうれしかった。等	・親切にされてうれしかった経験を思い起こさせることで親切にする・されることのよさについて感じられるようにする。 この内容については事前にアンケートをとる。
価値の追求 27分	2　資料「みちあんない」を読んで話し合う。 (1) おばあさんに気が付きながら通り過ぎるみほの気持ちについて考える。 ○おばあさんを横目で見ながら通り過ぎたとき，みほはどんなことを考えていましたか。 ・迷っているみほを見てどう思うか。	・友達と遊ぶお約束をしたのだから急がないといけない。 ・あれ，どうしたんだろう，困っているみたい。 ・声をかけたいけど，恥ずかしい。 ・どうしようかな。	・場面の状況を把握しやすくしたり，資料に浸らせたりするために紙芝居を活用する。 ・おばあさんが困っている場面を十分想起させる。
	(2) おばあさんのところに戻って来たみほの気持ちについて考える。 ○みほがおばあさんのところに戻って来たのはどうしてですか	・おばあさんのことが気になる。 ・まだ困っているかもしれない。 ・よし，思い切って声をかけてみよう。 ・困っている人をそのままにはできない。 ・困っている人を見かけたのに知らんぷりはできない。	・おばあさんに対する優しい気持ち，心配する気持ち，思い切って声を掛ける勇気など様々な意見がでるであろう。 ・わざわざ引き返した主人公の気持ちから考えてみることを補助発問とする。
	(3) おばあさんにお礼を言われたときのみほの気持ちについて考える。 ◎しおりと顔を見合わせてにっこりしたみほは，どんな気持ちだったでしょう。	・おばあさんを助けてあげられてよかった。 ・あのまま遊びにいかなくてよかった。 ・思い切って声をかけることができてよかった。 ・「ありがとう」って言われてすごくうれしい。 ・しおりちゃん，ありがとう。 ・うれしい。	・親切な行為をなしとげ相手にも喜ばれ感謝されたことが，２人にとっていい気持ちを味わうことができたちうことを分からせたい。
価値の主体化 13分	3　今までの自分を振り返り，これからの自分を考える。 ○今日の話し合いで心に残ったことは何ですか。 ○これからどんな自分になりたいか考えてみましょう。	・恥ずかしいと思っても，困っている人を見かけたら助けてあげるということ。 ・今までは，困った人に気がついてもそのまま通り過ぎてしまうことがあったけど，これからはみほさんのように，困っている人を助けてあげれる人になりたいな。	・親切にすることは，相手を気持ち良くするだけでなく，自分も気持ち良くなることに気づかせ，実践への意欲へと高めていきたい。
	4　教師の説話を聞く。		担任が妊娠中重い荷物を持っていたとき，小学校低学年くらいの子に助けられた話。

（3）板書計画

みちあんない

おばあさんをみかける

・いそがないと
・どうしたのかな
・こえをかけようかな
　でもはずかしいな

みほがおばあさんを見かけ通り過ぎる場面

おばあさんにこえをかける

・きになってしようがない
・しらんぷりはできない
・こまっているんだ

みほがおばあさんに声をかける場面

しおりとにっこり

・よかった
・きもちがいい
・ありがとう
・うれしい
・もどってきてよかった

みほとしおりがにっこりする場面

資料分析図

主題名　親切にする喜び　（価値　思いやり・親切　）　ねらい　身近にいる幼い子や高齢者に温かい心で接し，親切にしようとする心情を育てる。

資料名　みちあんない　（出典　「１ねんせいのどうとく」文溪堂）

場面	みほは、おばあさんを横目で見ながら、通り過ぎました。 ランドセルを部屋におくと勢いよく飛び出して行くみほ。途中で、おばあさんを見かけるが、横目で見ながら通り過ぎる。	みほは、おばあさんのところへ戻って思い切って声をかけました。 歩きながら、おばあさんのことが気になってくるみほは、おばあさんのところにもどり、思い切って声をかける。	みほは、しおりとかおをみあわせて　にっこりしました。 郵便局に連れて行って「ありがとう　」と言われた身歩は、しおりと顔を見合わせにっこりする。
主人公の心の変容	「あれっ、どうかしたのかな。」 早くしおりの家に行って、しおりと遊びたい。途中おばあさんを見かける。何かを探しているように見えたが、今はそれどころじゃない、きっと他のだれかが助けてくれるにちがいないと、思いながらその場を離れる。	「なにか、こまって　いたみたい。」 しおりの家には早く行きたいが、どんどんおばあさんの事が気になってくる。おばあさんはまだ困っているかな。おばあさんを助けてあげたいという気持ちで、おばあさんのところにもどり、勇気を出しておばあさんに声をかける。	「ほんとうによかった。」 おばあさんを郵便局に連れて行くことができた。おばあさんを助けてあげられたし、おばあさんに「ありがとう」と言われてすごくいい気持ち。おばあさんも喜んでくれたから，おばあさんもいい気持ち。
児童の反応	・早く友達と遊びたい。 ・おばあさんは困っているのかな。 ・きっとだれかが助けてくれるよ。 ・みほちゃんの気持ちが分かる。 ・どうして気が付いたのにそのままいっちゃうの。	・しおりちゃんのところに行くのが遅くなるよ。 ・よくもどってきたなあ。 ・やっぱりもどってきたね。 ・ほっとしたよ。 ・困っている人に気が付いても、声をかける勇気はないのに、みほさんはすごいな。	・おばあさんを郵便局に連れて行ってあげれてよかったね。 ・みほちゃん、よくやったね。 ・すっきりしたよ。 ・あのまま通り過ぎたら、すっきりしなかったね。 ・おばあさんも、しおりさんも、みほさんもいい気持ちになったね。
基本発問	おばあさんを横目でみながら通り過ぎたとき、みほは、どんなことを考えたのだろう。 ・迷っているみほを見てどう思うか。	みほが，おばあさんのところにもどってきたのは，なぜだろう。 ・みほはどんな気持ちでおばあさんに声をかけたのだろう。	しおりと顔を見合わせてにっこりしたみほは、どんな気持ちだったのだろう。